



子ども食堂への食材寄附をDXで支援

システムでマッチング 市内4カ所で実証実験開始

市は、全小学校区への子ども食堂の配置を目指し、課題の一つである食材の寄附提供者と子ども食堂とのマッチングをDXで支援するための実証実験を株式会社ワイヤレスゲートとの公民連携により2月3日から開始する。実験では、寄附者が寄附する食材を登録するとその一覧が表示され、子ども食堂はその中から希望する食材を選びマッチングを成立させるシステムを稼働させる。また、食材の配送についても課題となっているため、24時間稼働しているタクシーを活用する取り組みをあわせて行う。こうした課題は全国の子ども食堂に共通しており、全国展開に向けた検証について認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ等が参画して行う。

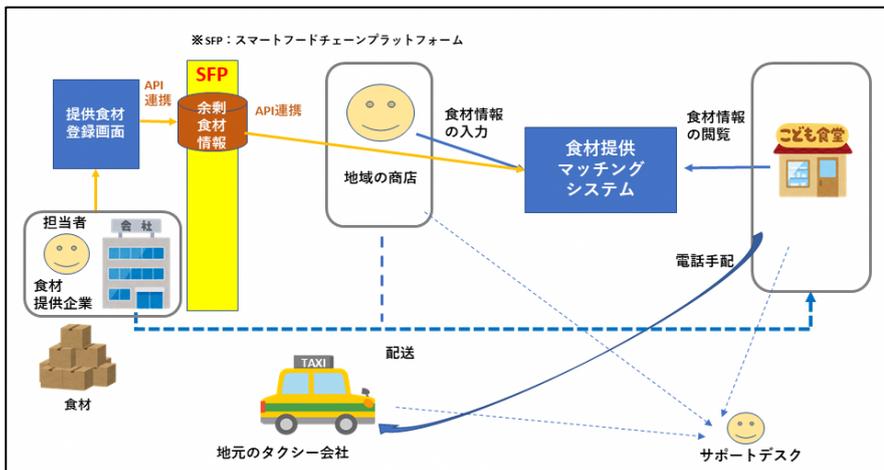
★事業のきっかけ

市は、子どもの居場所として、全ての子どもが身近に利用できるよう、全小学校区への子ども食堂の配置を目指しているが、現在市が補助金を交付している子ども食堂は45校区中18校区(19団体、21か所)にとどまっている。運用に必要な食材等の確保と手続きをDXにより簡易化することで、子ども食堂のさらなる配置を促そうと、逆プロポ(官民共創によって新規事業を生み出す株式会社ソーシャル・エックスのサービス)を活用し、株式会社ワイヤレスゲート(以下ワイヤレスゲート社)と昨年7月から子ども食堂支援事業における課題解決の協議を重ねてきた。

★実証実験の主な検証項目

- ①市職員が電話やメール等で食材寄附者と子ども食堂のマッチング業務を行っていたが、システムを導入することでどの程度効率化できるか。
- ②マッチングしても配送手段がないため食材等の受け渡しができていなかった事案を、タクシー等を活用することによりどの程度の受け渡しが成立するか。

※期間は2月28日まで。3月以降、振り返りを行う。



【実証実験の流れ】

寄附者となる事業者は食材の画像や量・賞味期限等をシステムに登録。子ども食堂はその中から欲しい食材を選んで寄附者に連絡し、食材を配送する日時と配送先をタクシー会社に電話する。

★食材の運搬費用に寄附を活用

食材の運搬費用はワイヤレスゲート社の「ワイヤレスゲート WiMAX+5G」の新ブランドである「こども食堂応援 Wi-Fi for 枚方市(※)」の契約者からの寄附金を原資とする NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ(理事長:湯浅誠さん、以下「むすびえ」)の基金を活用するため、子ども食堂の費用負担はなし。

(※) 契約者からの寄附金をこども食堂支援に役立てる社会貢献型の通信サービス。官民共創にて商品化され、地域に根差したブランド展開として「for ●●(自治体名)」を本実証実験からサービスを開始。詳細はこちら (<https://minnanorakuraku.com/kodomoshokudowifi/hirakata/>)。

★実証実験の参画メンバーと役割

上記メンバーに加え、フードロス等の取り組みにも資するかの検証を行う大学等も実証実験に参画する。それぞれの役割は以下のとおり。

① 枚方市

実験の場の提供(子ども食堂4団体、寄附事業者への声かけほか)

② 株式会社ワイヤレスゲート

システムの開発と行政負担を伴わない食材運搬費用助成金の原資の創出

③ 認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ

配送や宅配の課題は全国の子ども食堂の共通課題であるため、全国の子ども食堂を支援している「むすびえ」が検証にも参画。また、食材運搬費用助成金の創設、活用

④ 第一交通株式会社

食材等の配送業務の支援として、24 時間稼働しているタクシーを活用することで食材を適切なタイミングで提供できるものとして、市内で事業活動を行う第一交通株式会社が食料・飲料の宅配業務を行う際に必要な貨物自動車運送事業法の許可を取得し参画

⑤ 慶應義塾大学 SFC 研究所

内閣府の「食」の生産・流通・消費を最適化するデータ連携基盤「スマートフードチェーンプラットフォーム(SFP)」に参画している慶應義塾大学 SFC 研究所がこの実証実験が食品ロス削減に資する仕組み構築につながるか検証

⑥ 株式会社ソーシャル・エックス

「逆プロポ」(本市は昨年7月から活用開始)の事業運営

<お問い合わせ>

子どもの育ち見守りセンター(担当:中谷) ☎050-7102-3234、FAX 072-846-7952